

さわやかハイク山行報告書

通算山行NO	NO. 87	報告者	鈴木 仁
年 月 日	2010年 8月 6日(金)～8日(日)	2万5千	剣岳
山 名	北アルプス・剣岳(2999m)「大汝山(3015m)雄山(3003m)」		(大汝山・雄山)
体力度=5・難しい 技術度=4・高 道標=ある 駐車場=ある トイレ=ある(小屋) 展望度=素晴らしい 三角点名=剣岳 等級=三等			
試練と憧れの剣岳			
コース, タイム	8月7日午前4:00 早月小屋発-6:50 剣岳登頂- 8:50 前剣-9:45 剣山荘-11:00 剣沢分岐-13:50 大汝山登頂-14:00 雄山登頂-15:30 室堂ターミナル到着		
標 高 差	上り 早月小屋 2224m～剣岳 2999m =775m 剣山荘 2560m～大汝山 3015m=455m 下り 剣岳 2999m～剣山荘 2560m=439m 大汝山 3015m～室堂 2450m=565m		
参 加 者	講師:後藤隆徳、SL:井上弘二郎、近森正彦、渡辺正己、永尾 広、石和加世子 河野光江、村上充彦、村上美恵子、峰田光江、佐々木和雄、鈴木恵美子、 増田眞理子、増田 吉信、村山忠彦、鈴木 仁=以上 16人		

今回はD隊(渡辺・永尾・鈴木)の行動内容を報告させていただきます。
午前4時、まだ夜が明けない早月小屋を出発する。いよいよ剣へ向けての一步だ。
朝露の早月尾根を月明かりが我々の行く手を誘うように、仄かに照らし出す。



静寂なる闇、振り返ると遙か彼方には富山平野の街明かりや・富山湾の漁り火が揺れて見える。

人々が就寝に付いているなか、これから自分たちは大なるチャレンジをするんだという高揚がその足を速める。
暗く標高を表すプレートが判読できるようになってきた頃、2600mの雪渓地帯に突入。
幾分火照ってきた体には雪渓を渡る風が心地良く、猛暑日を繰り返す日々から解放されて山の有り難さを感じる。

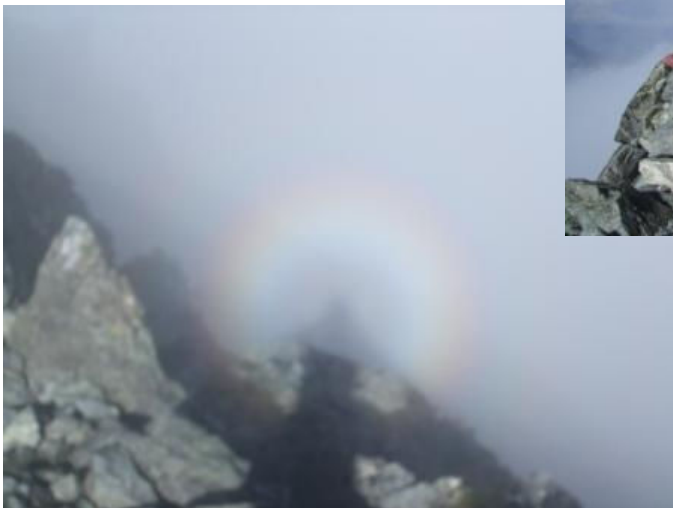
2860m 朝日を受けて、頂上を指すような光が天空の闇を払っていく。いよいよ神々しいまでに輝く剣岳は、圧倒的なスケールでその全貌を表す。

望むは天候のこと。晴れてくれ！剣から後立山連峰、中央アルプス、遙か彼方雄大な富士を望ませてくれ！と祈りつつ頂に向かう。

やがて前剣からの分岐に出る。もう少しで目指す剣岳の頂上だ。祠が見える。
6時50分やった～！頂上だ！剣だ！また一つの夢が叶った。岩山の殿堂の剣に来たんだ。
喜びで胸は震える。しかし何故か心からの喜びは少なかった。自分が想像していた剣はもっと険しく、困難で人を寄せ付けない、苦労を重ね、登る孤高の山であると想像をしていた。それが前泊と言う行程を踏んでいることもあり、大きな達成感も無く、あっけなく頂上を踏むことは大きな期待から微かな失望感を味わうことにもなった。

今回は残念ながら頂上からの展望が望めず、剣の偉大さを実感できないことや、カニの横這い・縦這いがまだ未体験なのが原因だろう。後続部隊を待っていると僅かな時間剣の神様はご褒美として四方の眺望を感じられる時をくれ、剣とは相対する緩やかなカールを見せる室堂方向も確認できた。

またブロッケンにも遭遇することができた。



残念ながら後続部隊はこの喜びは得ることが出来なかった。でもこれから幾多の山々の頂きを踏むことになるだろうからそれまでの間ほんの少しの我慢

雲海の中に微かに見える山並みを眺めていると、沸々と新たな欲望が沸いてくる。今は7時。室堂には4時に着く予定。室堂の東には立山三山最高峰の大汝山(3015m)や立山神社を祭る雄山(3003m)が聳えている。すぐそこに3000m級の山が有ることにどうしても欲望は抑えきれない。行きたい。未踏峰の山に足を踏み入りたい。

今の時間なら行って来れる。渡辺さん、永尾さんに同意を得て登頂した後藤講師に別行動の許可を求めた。本来団体として登山をしているのだから目的やルートを大きく外れることは当然望ましいことでない。出来る、出来ないでは無くグループの皆さんに心配や不快感を与えてしまうことは十分理解している事だが、どうしても行きたい！

後藤講師の快い返事を受けて別行動をさせて頂き、また皆さんにご迷惑を掛けたことに改めてお礼と謝罪を申し上げます。

下山を開始。3名でカニの横這いに向かう。剣の核心部である。期待で胸が弾む。当然ネットや本で学習済みであり、カニの横這いの制覇の仕方、安全な方法は知っている。さあいらっしゃい状態。

でもそこはナント拍子抜けするようなしっかりとした足場であり、鎖や足がかりとしてピンが打たれていた。霧状態で足元しか確認できず、剣の高度感を味わえないため易々と感じたんだろうけど。。。。

後はひたすら降る。いつもの、折角登ったのにとぼやきながら。降る、下る。クダル。



8:50 分前剣(2613m)着。永尾さんが、折角来たのにあまり早足で下山しても眺望も花も楽しめない、自分は後続部隊とのんびり降る、前剣で別れると申し出。3人で登頂を目指していたので非常に残念であったが、永尾さんの今回の目的を達成するためにここで別れることになり、トランシーバーを預かる。



永尾さんの大汝山の登頂を祈ると言う言葉を受けて、剣山荘に向けて降り始める。

9時45分剣山荘に到着。剣山荘はリニューアルしており、思わずテラスでビールを。と言う欲求に晒されたがこれからの行程を考え渋々冷水で喉を潤す。

剣山荘で大汝までのルートを確認し、剣沢小屋前を通過し別山分岐で向かう。剣沢小屋前では小さな池があり、そこに映る逆さ剣は綺麗だった。



濃く青く輝く夏空、白く沸き立つ夏雲、陰しく天空と地上を切り裂くように聳える剣、その全てを移し込む穏やかな水面は、あの気高く激しい山も愛おしく感じさせる。



三田平の雪渓を幾つも超え別山分岐に向かう。此処からはまたひたすら頂上を目指しての登りが続いていく。

剣沢キャンプ場には多くのテントが色とりどり建ててあり、此処を起点に縦走や滞在をしているんだろう。明るい声が彼方此方から聞こえてくる。そう言えば永尾さんが今度テントデビューしたいって言ってなかったかなあ(冗談です。嘘、うそ、ウソ)

11時別山分岐(2680m)。ここで昼食。剣沢荘で購入したパンをムシャムシャ。休憩者に聞くとこれから別山に行く。別山は映画「点の記」にも出た行者様が「ううううううう〜む？」等と言いながら剣に向かい何やら言っていた祠がある所で、しかも此処からの眺めの剣が最高!との事でしたが、行動時間を考え断念。休憩者を見送りました。

真砂岳を過ぎた頃から、室堂のカールに生命力を感じさせる緑、雷鳥沢キャンプ場を埋め尽くすカラフルなテント、そして室堂の地形が織りなす無数の雪田が見事なコントラストで、より一層足取りを軽くさせる。そんな時に背後から「追いついちゃった」の声。別山分岐で会った休憩者。そう、よ〜く思い出せば剣岳頂上にも居た単独登山者だった。これからは同じ行程、それなら一緒に行こうか?にありがとうございます。の返事。

てなことで、さわやかハイクのメンバーを増やすために誘ったのであって、何の私心も下心もなく（多分？）大汝山へ向かう。

13時50分大汝山(3015m)登頂。彼女は富山在住でここ一体は良く知った庭。



勿論大汝山も何度も登頂経験があり、スルスルと頂上に登り標識をヒョイ

う～～む富山女やるモンだなあ

ここから雄山神社は20分ほどの尾根歩き、幾多の観光客、ツアーの人達とすれ違う。これほど多くの人がある立山は魅力ある山である事を感じるが、経験の浅い人達に対してツアーコンダクター、インストラクターの指導は少なく、山が持つ魅力を広めて欲しいとの希望と同時に、怖さ、厳しさ、その中で小さな人間がお互いルールを守り、自然を尊び、助け合う事を教えて欲しい。

14時雄山神社(3003m)登頂。此処は皆さんご存じの様に、頂上よりホンの10m程下から神様の聖域となり、有り難いことに？500円を払って境内に入る仕組み。しかも神社がある所が3003m。信心深い？渡辺・ジン・彼女は勿論御利益を受けに参りました。

雄山神社では御神酒、お札、登頂記念札それと有り難いお祓いを受けて、お祓い中はさわやかハイク皆さんの安全登山だけを一心不乱に祈ってきました。たぶん。

出来れば御神酒のお代わりが欲しかった。

後は室堂ターミナルに向かってまっしぐら。小学生・中学生の夏休み体験でごった返す中を、ハイ！ごめんなんしょ。チョックラごめんよ。と渡辺さん得意な走り下山で突っ走る。登山道は所々凍結しており、グリセードよろしくスイスイと滑りながら、風は既に生ぬるく感じる様になってきた。



15時30分。立山室堂山荘で彼女と別れて、室堂ターミナル(2450m)の湧き水に喉を潤す。振り返ると剣御前、大汝山、雄山、幾多の山々が取り囲み、2日間の立山を思い出す。暑さもあり、雲海もあり、岩山もあり、雪渓もあり、鎖もあり。。。。。

また一つ思い出の山となった。

8月猛暑の中、これだけの感動を得られたのは、会の皆さんのおかげだと思っています。改めて今回の別行動のお詫びと感謝を申し上げます。

最後に井上君、俺の帽子どうなっちゃったのカナ？